

■屋外待機はしないなら■

屋外待機をしない、してもごく短時間、という会場行動プランを立てているなら、重装備の防寒具はむしろ邪魔でしかない。会場内はどこでもかなり混んでいるので、あまり着ぶくれていたら移動しづらいだけでなく普通に暑いし、分厚い防寒着は脱いでも嵩張って邪魔になるので選択を誤ると苦勞することになる。

こういったプランの場合は上着そのものはコンパクトでそれほど厚くないものを選び、帽子・マフラー・手袋・カイロ・耳あてなどで熱の損失を補ってやると良い。入場したらそれらを外してバッグにしまえば身軽に行動できるようになるというわけだ。

この場合上着には最低防風性能は必須である。風さえ通さなければ薄くてもそれほど寒く感じないものだ。その意味で風を全く防げない裏地無し frees 製のウエアなどは屋内では暖かく感じても屋外では上着としては不向きなので注意しよう（逆にマイクロフリースのシャツの上にウインドブレイカーとしての上着といったチョイスは効果的ではあるが、ナイロン系素材の重ね着は静電気を大量に発生させる可能性もある。必ず事前に着て試してみること）。

■屋外待機前提なら■

逆にこちらの場合、吹きさらしの屋外に早朝から最長では5時間以上待機し続けることになるので半端な防寒では体調を崩しかねない。とはいえ、会場内に入ったら分厚い上着が邪魔になることに変わりはないので、その両立を考える必要がある。

まず上着はしっかりと防風性能とできれば防水性能を持ったものを選択しよう。とっさの雨や防風にはフードが付いていると役に立つ。

また、アンダーの頁でも触れたが、しゃがんだり座ったりという体勢を取った際に腰が出てしまっただけでは防寒にならない。せめてお尻を覆える裾丈がほしい。

さて、実際に防寒を担うのは上着の中に着る（物によっては上着の内側に防寒着を取り付けられるレイヤー構造になっているものもある）中層の防寒着だ。館内に入ったら機を見てこの中層だけを脱げば汗だくにならずにすみ、荷物としても上着ほどかさばらないというわけだ。

この中層は保温性が高く、収納時コンパクトになる衣料が望ましいので、収納袋付きのダウンのベストなどがオススメだ。

シーズンなどは冷えやすく、雨などで濡れた場合全く乾かないので、ボトムにも軽く、万が一の際に乾きやすいポリエステル系織の混紡された生地のできたチノパン系や、脚の動きが楽なカーゴパンツなどを選択したい。共に薄手でも下にロングのアンダーを履いていけば十分な保温性を確保できる。

もちろんこのプランの場合も帽子・マフラー・手袋・カイロ等は必須だが、開場前待機では座って過ごすことになるため、ひざかけを忘れずに用意しよう（特に女性参加者は、脚に巻きつけられるようなある程度大判のひざかけと、巻いたそれを留める安全ピンや洗濯バサミのような物を組み合わせて用意していくと良い）。余談だが、待機中はカイロは1つを腰、1つを手を暖めるためにポケットに入れておくのが効果的だ。ただし、腰のカイロはトイレや移動時に落としやすいので十分注意するか、衣類貼付型のものを選ぼう。

■意外と大切な靴下の話■

足元の防寒、最後の砦は靴下だ。別に100円ショップの靴下でもいけなくはないが、防寒の観点からはくるぶしや足首からの熱損失はばかにならないので、足首をしっかり覆い、ズボンの裾から肌を出さないよう膝下までの長さがある方がよい。

ある程度の厚みがあり、ウール、ポリウレタン等の水分を貯めこまない素材の靴下なら万が一の雨の際にも足から体温を奪われるのを防ぎ、1日歩き回る際の疲労も大きく軽減できる。逆に薄い綿の靴下は湿気を溜めやすく、足元から冷えを登らせるので避けた方がよい。

アウトドアショップで販売されている軽ハイキング用の中厚手の靴下がベストだ。

